

赤潮情報（3）

令和3年6月15日

各漁業協同組合長 殿

福岡県水産海洋技術センター
豊前海研究所長

6月14～15日に調査を行った結果、豊前海全域で有害プランクトンの一種であるシャットネラ属（*Chattonella* sp.）が引き続き確認されました。広範囲で確認されていますので、今後も十分に注意してください。

<有害プランクトンの状況>

- シャットネラ属（*Chattonella* spp.）は、豊前海では通常6～8月頃に発生し、海水1ccあたりおよそ100細胞程度に増えると魚がへい死する恐れがあるプランクトンです。
- 本種は海水1ccあたり500細胞以上になると、海水の変色が目視できますが、変色が確認される前の低密度の状態でも漁業被害が生じる恐れがあります。また表層の変色がなくても中層～底層に移動して増殖している場合がありますので、海水の変色が見られない場合でも注意が必要です。
- へい死の恐れがありますので、漁獲物の港内での蓄養は避け、早めの出荷を心がけてください。また変色域付近ではスカッパーを閉めて航行するなど、活け間の魚の状態にも注意してください。

<今後の状況>

- 今後の天候次第では、本種がさらに増殖する可能性があります。豊前海の広範囲で確認されていますので、前回より減少した場所でも十分な注意が必要です。研究所では引き続き調査を実施しますので、今後の情報には十分ご注意下さい。

漁業被害、海水の変色などがみられましたら、豊前海研究所（0979-82-2151、担当：恵崎、後川）までご連絡下さい。

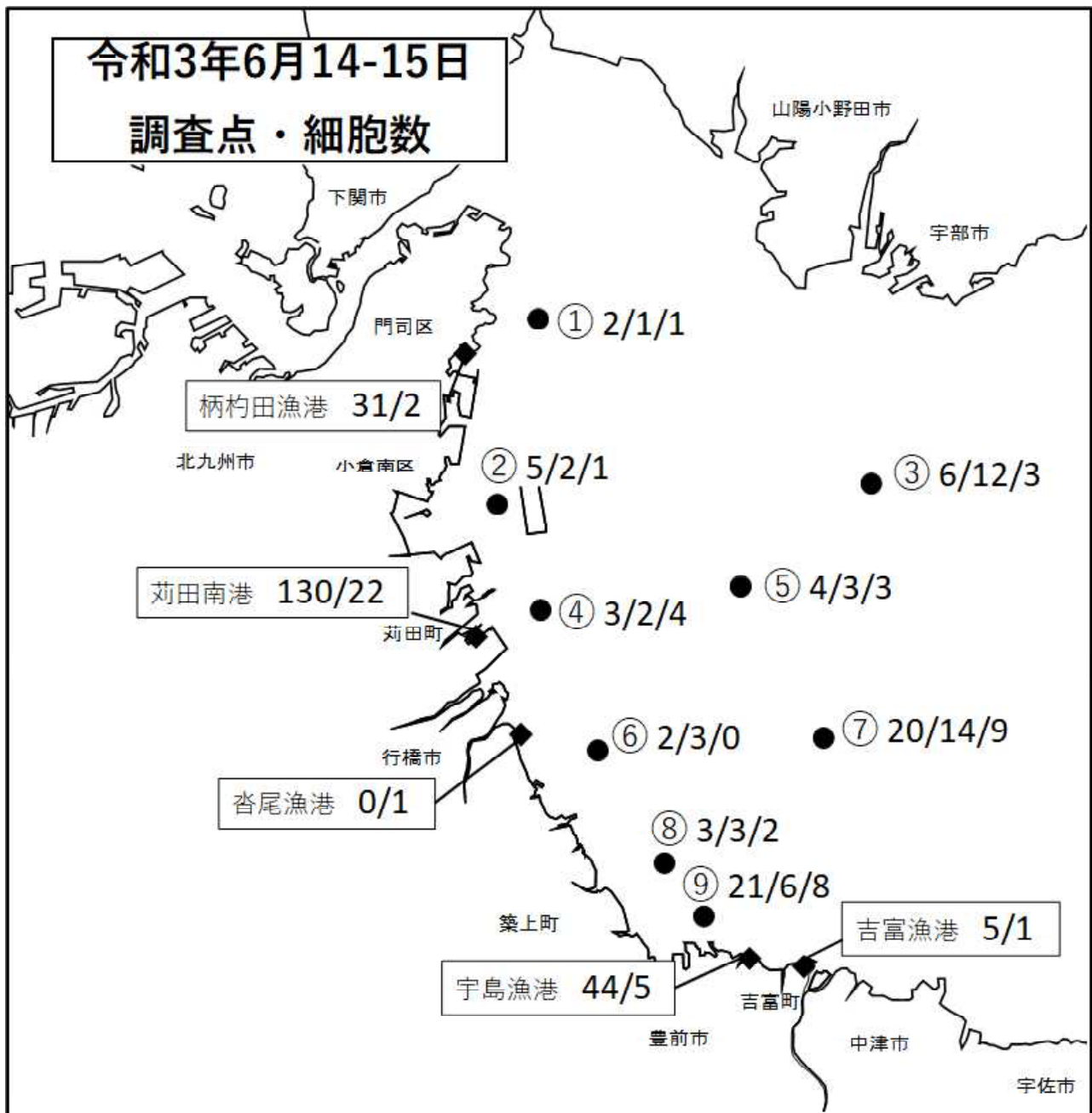


図 シャットネラ属細胞数 (海水 1 ccあたり)

※ 漁港は0m層 / B-1m層の細胞数を示しています
 ※ 沖合は0m層 / 5m層 / B-1m層の細胞数を示しています